

学位記授与式 告辞

皆さん、御卒業、おめでとうございます。

いま、宮城学院女子大学での四年間の教育課程を無事修められ、社会へと巣立っていかうとしておられる皆さんに、私たち教職員一同、心からのお祝いの言葉とエールとを贈りたいと思います。

ここにおられる皆さんは、ほとんどの方が、四年前、宮城学院への入学と同時に新型コロナウイルス(Covit19)パンデミックを経験されました。とても恐い経験でした。対策のために全国の学校とともに本学も閉鎖され、新学期は六月まで開始されませんでした。

かろうじて開始された授業もオンライン授業やオンデマンド授業であり、入学式は、秋口の九月を待たなくてはなりませんでした。もしかすると、皆さんがこの桜ヶ丘キャンパスで過ごした大学生活は、人によっては四年間のうち半分に満たない方もあったかもしれません。

実は、授業を提供する大学の側にとっても、これは未曾有の経験でした。この経験から何を学んだら良いか、プラスかマイナスか、本当のところはまだ総括できていません。しかし私は今日、あえてこの経験から学んだこととして二つのことを取り上げたいと思うのです。

一つは、私たちが生きている現実の持つ予測不可能性と不安定性のことです。私たちが生きていかうとする未来、それは、実は決してあらかじめ予測できたり、決めることができたりするような安定したものではない、という事実です。

もう一つは、私たちが何かしようとする際、私たちの前には必ずや様々な制約や困難が立ちはだかるということです。私たちが生きるということは、それほど自由なことでも簡単なことでもなく、克服すべき課題がいつもつきまとっている、という事実です。

皆さんの心を不安にしたり、皆さんの勇気をくじかうしたりするつもりは毛頭ありません。そうではなく、私たちは誰もが、その人生において、夢の中でしか否定できないような冷徹な「現実」に遭遇する。そして、その「現実」は、予測もできなければ、解決も難しいというものとして私たちを待ち構えている。そんな事実を、不本意だけれども認めざるを得ない、そう申し上げたいのです。

皆さんが大学で身につけた様々な専門的な知恵は確かに生きていくために役に立つ、素晴らしいものです。しかし、それをもってしても対処できない現実もあるのです。これからそんな厳しい現実社会に皆さんを送り出そうとしている私は、それにもかかわらず、いやそうだからこそ、聖書の御言葉を、皆さんに贈りたいと思うのです。

それは、私自身が日々力をいただいているものでもあり、皆さんにも、必ずや、日々生きる力、打ちひしがれることのない力、前を向いて歩んでいく力を、与えてくれることでしょう。有名なコリントの信徒への第一の手紙 13 章 13 節です。

信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。
その中で最も大いなるものは、愛である。

「信仰」とは神様が私たちと一緒に生きてくださることを信じる生き方のことです。「希望」とは、そんな生き方をする中で、恵みとして必要に応じ必ず与えられる生きる力です。

心を高く上げて、可能性を切り開いていこうとする精神態度。神様からいただくエンパワーの恵みと言い換えることもできるでしょう。そして「愛」とは、どのような状況にあっても支え導いてくださる神様の私たちに対する想いであり、エンパワーメントの源のことを示しています。

それらは、決して尽きることのない豊かな恵みであり、いつまでも残っていくものだ。私たちの人生を神様がともに歩んでくださり、希望と愛がともにあり続ける。その尽きせぬ恵みの中でもっとも大きいものが「神様の愛」にほかならない。

この言葉は、使徒パウロが書いたとされています。実は、この手紙が書かれた二千年前もまた、現在と同じように、いやむしろ現在よりもよりきびしく、不安や困難、さまざまな制約が人々の人生を阻んでいる時代だったのです。信仰、希望、愛を語るパウロの言葉は、そのような時代の人々を励まし、癒し、力づけたのです。

そして、パウロが語ったように、その信仰、希望、愛とは、いつまでも残り続けることによって、現代においてもなお、皆さんを含め、私たちすべて不安と困難の中で生きざるを得ない多くの人々を励まし、癒し、力づけ続けてくれるものなのです。

皆さん、どうか、不安になったり、どうしたら良いかわからなくなったり、前に進む力がついでてしまったりした時、神様を呼び求め、祈ってみてください。そこには、厳しさや困難さに染め抜かれた現実ではなく、神様も一緒にいて皆さんをしっかりと支え導いてくださっている現実を発見することができるでしょう。

これから新たに始まろうとしている皆さんの人生が、信仰と希望と愛が共にあり、神様の愛によってしっかりと支えられ、豊かな実りへと導かれるものでありますことを、心から祈ります。

みなさん、ご卒業、本当におめでとうございます。

2024年3月19日
宮城学院女子大学
学長 長谷部 弘